

東芝テック（株）静岡事業所（大仁） サイトレポート情報

所在地： 静岡県伊豆の国市大仁 570

敷地面積： 55,066m²、建家総面積：53,552m²、緑化率15.03%

設立： 1950年2月、従業員：733人（関係会社常駐含む）（2021年4月現在）

主要製品：POSシステム、電子レジスター 等

ISO14001 認証取得：1997年6月、最新更新年月：2021年1月
（ISO認証番号：JQA-EM6903）



ごあいさつ

当静岡事業所大仁サイトは、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と緑豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で事業を行っています。

事業所では、POSシステム、電子レジスターなどの流通情報システム機器の開発・製造・サービスを行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



環境保全担当責任者 高井真仁

2022年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1997年6月に認証取得、2012年4月からIMSとして活動

2020年11月に更新審査合格、及びIMS「プレミアムステージ」合格

2022年11月に定期審査実施、「登録されているマネジメントシステムについて、システムが維持されている」と評価。

☆省エネルギー

電力量目標 443.1万kWh ⇒ 実績 396.9万kWh

☆廃棄物の削減

廃棄物総排出量目標 1,801kg/億円 ⇒ 実績 1,350kg/億円

☆環境調和型製品の開発

新商品において環境自主基準適合 ⇒ キャッシュレスセルフ：SS-N1C

☆実績・省エネ：前機種に対し、動作電力を約14%低減（135W⇒116W）

・化学物質の削減：RoHS2（特定フタル酸対応）ハロゲンフリープラスチック及びプリント基板採用

新商品特定化学物質全廃 ⇒ 実績 全7シリーズ製品（ODM製品含む）

RoHS2又は旧RoHS、環境自主基準適合OK

☆全員参加・啓発活動の展開

環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境ニュース配布

☆地域との協調

ペットボトルキャップ寄付、プルタブ寄付、近隣幼稚園に読み聞かせ実施
（周辺地域清掃、ボランティア活動の参加はコロナ禍で中止）

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

【2022年度に開発した主な製品】

キャッシュレス会計専用セルフレジ SS-N1C



《特徴》

消費者の使い勝手を訴求し、バーコードスキャンの読み取り制度の向上
スキャン後の袋詰めスペースを買い物かご置きに近づけ、消費者が商品登録から袋詰めをする作業負担を軽減
重量センサーによるセキュリティ機能を搭載

《化学物質の削減》

RoHS2特定フタル酸対応
筐体プラスチック及びプリント回路基板とハーネスの一部にハロゲンフリー材を採用
鉛フリーはんだやクロムフリー鋼材の採用

[IMS方針]

私たちは、当社経営理念「モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに」のもと、「統合マネジメントシステム(Integrated Management System)」を構築し、継続的な改善を図ることにより、以下を推進します。

1. すべての事業活動において、法令、規制、契約上の義務、その他の要求事項を順守します。
2. 私たちはモノ創りにこだわり、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品サービスをタイムリーに提供し、お客様の発展に貢献します。
3. 環境に配慮したモノ創りを通して、お客様及び自社の環境負荷を低減し、環境汚染の予防に努め、持続可能な地球社会の発展に貢献します。
4. お客様と社会の信用に応えるため、事業活動全般における情報に必要なセキュリティ対策を講じ、情報漏洩を防止します。
5. 「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康保持増進」を念頭に、組織で働く全ての人の生命・安全を最優先した事業活動を行います。

東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁) 環境基本方針

当事業所は、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と文化を育む、魅力(ゆめ)ある伊豆の国市の住民と共存しています。

わたしたちは環境への取組みを、企業経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「東芝テックグループ経営理念」のもと、人と、地球の、明日のために豊かな価値の創造と地球との共生を図り、顧客現場の課題を解決するソリューションパートナーとして脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営により、持続可能な社会の実現と気候変動や持続可能な消費と生産への対応などのSDGsの達成に貢献し、新しい未来を始動させます。

1. 事業と調和させた環境経営の推進

- 1) 事業活動、製品に関わる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減、環境汚染の予防の保全等に関する環境目標を設定・推進します。
- 2) 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図り、定期的な見直しを行います。
- 3) 環境に関する法律・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準などを順守します。
- 4) 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
- 5) 環境方針、環境活動について広く社内外へ積極的に公開します。
- 6) グローバル企業として、東芝テックグループ一体となった環境活動を推進します。

2. 事業活動での環境負荷低減と環境調和型製品の提供

- 1) 地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品の両面から有効な利用、活用を促進する積極的な環境施策を展開します。
- 2) ライフサイクルを通して環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品を提供します。
- 3) 設計、調達、製造、物流、廃棄などすべての活動段階において、気候変動への対応、資源の有効活用、化学物質の管理などの環境負荷低減に向けた施策に取り組みます。
- 4) 持続可能な社会の実現のため、社会に与える価値や意義を考え、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。

3. ステークホルダーとの連携

- 1) 地域・社会をはじめとするさまざまなステークホルダーと積極的なコミュニケーションを図り、連携した活動を推進します。

2022年 4月 1日

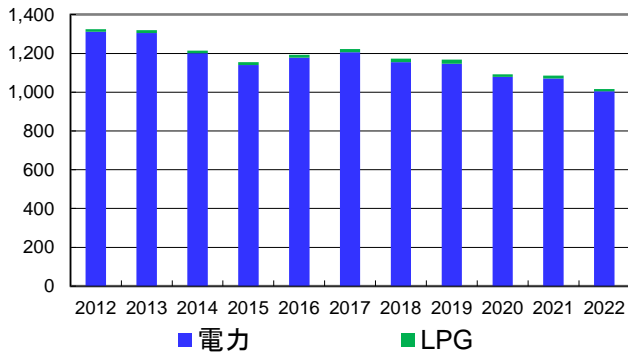
東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁)

事業所長

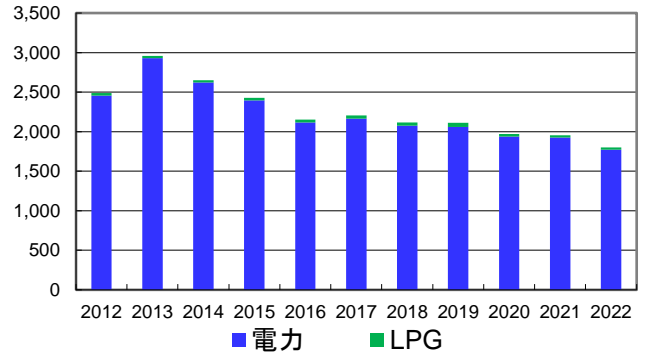
土屋 竜宏

環境負荷データ

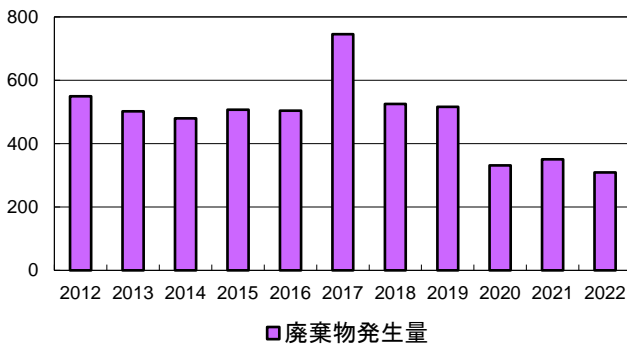
エネルギー使用量(単位:KL)



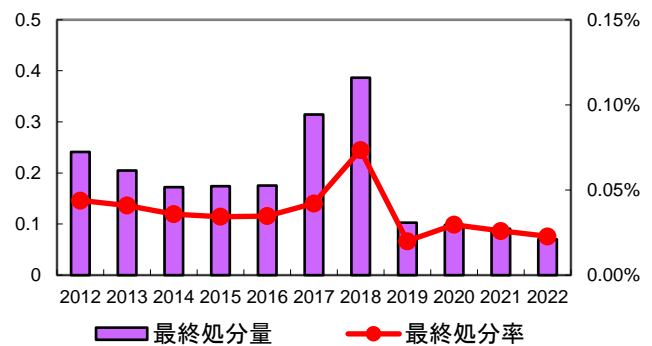
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

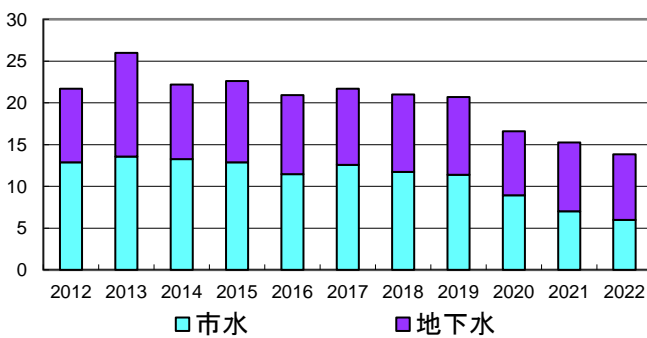


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

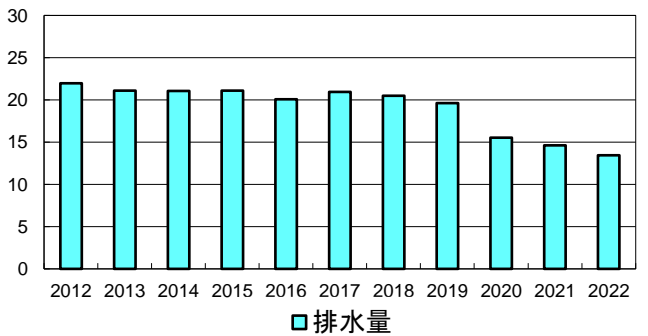


主な廃物名:プラスチック、木屑、ガラス屑、廃油等

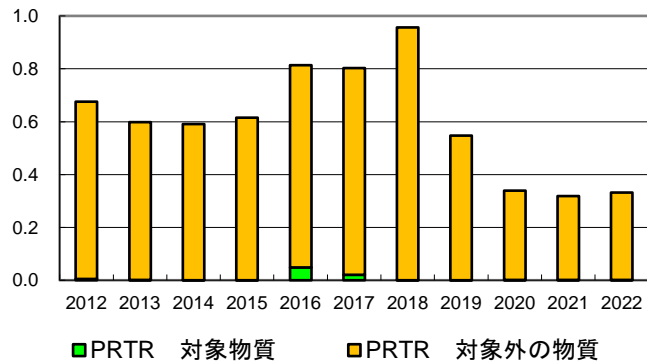
水の使用量(単位:千m³)



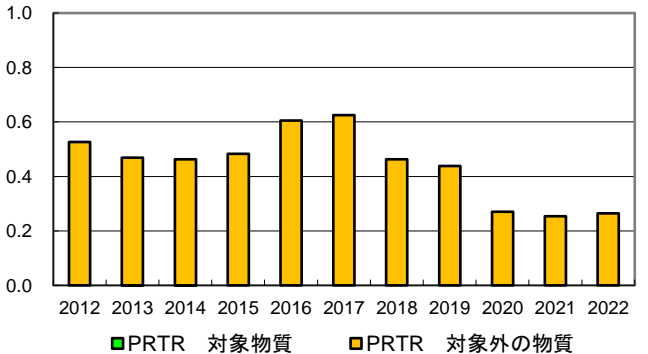
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質:エタノール

遵法管理状況

<大気測定結果> 特定施設無し

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx (ppm)	対象外	対象外	対象外	対象外
SOx (Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん (mg/Nm3)	対象外	対象外	対象外	対象外

<排水測定結果> 特定施設無し(自主測定)、河川(狩野川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(水濁法)	5.9~8.5	7.2	2ヶ月1回
BOD (mg/ℓ)	最大160(平均120)	25	3.3	2ヶ月1回
COD (mg/ℓ)	最大160(平均120)	120	1.8	2年1回
SS (mg/ℓ)	最大200(平均150)	40	2.0	2ヶ月1回
カルシウム (mg/ℓ)	5	4	<0.5	2ヶ月1回
鉛及びその化合物 (mg/ℓ)	0.1	0.08	<0.01	2年1回

<騒音・振動測定結果> 特定施設 騒音:空気圧縮機施設(コンプレッサー)、振動:空気圧縮機施設(コンプレッサー)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音 (dB)	敷地境界:昼	65	65	57.2	年2回
	敷地境界:夜	55	55	50.4	年2回
振動 (dB)	敷地境界:昼	70	70	44.8	年1回
	敷地境界:夜	65	65	23.1	年1回

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)特定施設無し(自主測定)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0~9.0	5.2~8.8	8.2	年4回
BOD(mg/ℓ)	600	550	103.1	年4回
SS(mg/ℓ)	600	550	122.1	年4回

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境コミュニケーションの紹介

<環境一斉アクション:プルタブ・ペットボトルキャップ寄贈>

当事業所は社会貢献活動の一環としてプルタブを容器から分別して集積し、それを関係団体に寄付しています。これは2回/年実施しており、今回は東芝グループグローバルで一斉に実施した「社会貢献一斉アクション」の参加に合わせ、プルタブを関係団体に寄付しました。

22年度では年間でプルタブ10.5kg(26.3千個)が集まりました。又、ペットボトルキャップでは約234kg(93.6千個)が集まり、これも各団体に寄付しています。

(実施概要)

- ・日時:2022年 6月2日 4.5kg(約11.3千個)
2022年12月6日 6.0kg(約15千個)
- ・ペットボトルキャップ寄付 随時 234kg(93.6千個):子供ワチン117人分/年寄付した計算



<近隣幼稚園に読み聞かせ実施>

当事業所では、社会貢献活動の一環として地元の幼稚園や小学校に2011年度から読み聞かせや農作業の手伝いをボランティアとして実施してきました。

21年度はコロナ禍にてリモートで読み聞かせを実施しましたが、22年度はコロナ前と同じ幼稚園を訪れて読み聞かせを実施し、園児たちに大変喜ばれました。

(実施概要)

- ・日時:2022年6月22日、28日、7月12日、
11月16日、21日、12月7日 (6回)



生物多様性の保全への取り組み

<絶滅危惧種 三島柴胡(ミシマサイコ)の栽培と黒メダカの繁殖>

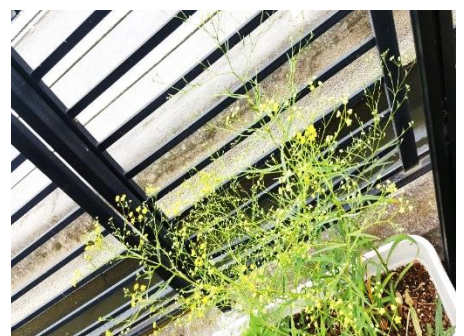
当事業所では、生物多様性ビオトップ活動として、絶滅危惧種のミシマサイコの栽培に取り組んでいます。

ミシマサイコは、セリ科の多年草で本州から四国・九州の日当たりの良い山野に自生していましたが、乱獲により絶滅危惧種となっています。

毎年冬季に種が多く採取できた翌年度には従業員に種を配布し、自宅で栽培をして頂いています。

又、黒メダカの繁殖飼育もしており、従業員への癒しやお客様の工場見学のルートにも役立っています。

22年春には卵から十数匹の稚魚が孵り、又、23年春にも13匹孵りました。



従業員自宅で栽培状況



絶滅危惧種 黒メダカ

東芝テックでは現在、生物多様性活動として、この絶滅危惧種である黒メダカを飼育・増殖させています。

ダツ目 メダカ科(アリアケス科)に属する体長4cm程の淡水魚。かつて日本では、重宝ゆかりの宇佐川にも数多く生息していたが、中にはミシマサイコと呼ばれる、1980年代後半に絶滅したと推定されている。絶滅の原因は、農薬の使用や生活排水などによる水質の悪化、農作業や水田の整備などによる生息地の減少、繁殖期の急激な水かさ増しによる水田の干上がりによる減少などが挙げられている。また、ミシマサイコは水田の上層・中層に生息する種であり、近年の農地改良に伴う水田の浅く化により、利用水質が劣化し、水田内に進入するものが困難になっていることが特に顕著となっており、メダカの繁殖力を大きく減らしている。

このメダカは、環境省の委託により、1999年2月に環境省(当時)が実施したレッドリストにて絶滅危惧種(準絶滅危惧種)として指定された。また、環境省の委託により、2000年2月に環境省が実施したレッドリストにて絶滅危惧種として指定された。絶滅危惧種となることが知られており、環境省の委託により、2000年2月に環境省が実施したレッドリストにて絶滅危惧種として指定された。絶滅危惧種となることが知られており、環境省の委託により、2000年2月に環境省が実施したレッドリストにて絶滅危惧種として指定された。

管理担当 静施

環境目標

2022年度のサイトの主な環境目標

推進項目	指標	2023年度目標
地球温暖化の防止	電力量	434.4万kWh以下 (10年度比71.6)%
資源の有効活用	総発生量原単位 有価物率	1,768kg/億円以下 65%以上
化学物質管理	環境監査対象施設のリス スク低減管理	環境監査評価 「A」維持

環境中期計画

サイトの主な環境中期計画

推進項目	指標	中期計画達成年 (2023年度)目標
地球温暖化の防止	電力量	434.4万kWh以下 (10年度比71.6)%
資源の有効活用	総発生量原単位 有価物率	1,768kg/億円以下 65%以上
化学物質管理	環境監査対象施設のリス スク低減管理	環境監査評価 「A」維持